

# 環境報告書

～ 2007 年度環境活動報告 ～



国立大学法人埼玉大学

# 目次・対象範囲

## 環境報告書目次と環境情報提供促進法の記載事項

| 目次                    | ページ | 環境情報提供促進法の記載事項     |
|-----------------------|-----|--------------------|
| 対象範囲                  | 1   | 対象とする事業年度、組織の範囲    |
| 学長あいさつ                | 2   | 代表者の緒言             |
| 環境配慮の方針               | 3   | 環境配慮の方針            |
| 環境に係る教育               | 4   | 教育研究活動に係る環境配慮の情報   |
| 環境に係る研究               | 6   | 教育研究活動に係る環境配慮の情報   |
| 省エネルギーへの取組み           | 7   | 事業活動に係る環境配慮の取組みの状況 |
| コピー紙使用量と廃棄物排出量削減への取組み | 10  | 事業活動に係る環境配慮の取組みの状況 |
| 水使用とその他の環境配慮への取組み     | 12  | 事業活動に係る環境配慮の取組みの状況 |
| 環境法令遵守                | 13  | その他(法規制対応)         |
| 構内での取組み               | 14  | 事業活動に係る環境配慮の取組みの状況 |
| 生協学生委員会の取組み           | 19  | 事業活動に係る環境配慮の取組みの状況 |
| 2008年度環境目標と行動計画       | 21  | 事業活動に係る環境配慮の計画     |
| 環境管理体制                | 24  | 事業活動に係る環境配慮の取組み体制  |

### 対象範囲

報告対象期間：2007年4月～2008年3月

対象組織：埼玉大学大久保キャンパス

#### 【学部】

- －教養学部
- －教育学部
- －経済学部
- －理学部
- －工学部

#### 【大学院】

- －文化科学研究科
- －教育学研究科
- －経済科学研究科
- －理工学研究科

#### 【機構・センター等】

- －全学教育・学生支援機構
- －総合研究機構
- －総合情報基盤機構
- －教育・研究等評価センター
- －学内共同研究施設等
- －事務局、食堂等

### ◇教職員数・学生数、建物

学生数：8,880人

教職員数：690人

建物延床面積：139,898m<sup>2</sup>

### ◇環境報告書作成の基準文書

環境報告書の記載事項等の手引き

(2005年12月 環境省)

環境報告書ガイドライン(2007年度版)

(2007年6月 環境省)

21世紀になり、人類が地球環境を守り、自然と共生しながら暮らしていく道を本格的に築き上げていかなければならない時代に入っています。しかし、産業革命以来、人類社会が地球環境に及ぼしてきた影響は、直ちに除去できるものではありません。着実に、そして持続的に、その低減、さらには解消を目指していかなければなりません。この課題は、全世界が共同して取り組むべきグローバルな課題であると共に、「think globally, act locally」が世界共通の標語となっていることに示されますように、ローカル・レベルの課題でもあり、行政、市民、企業など、社会のあらゆる構成員が一丸となって追求していかなければならないのです。



大学は、「知の府」として、この現代的課題に応えるべく教育研究活動を推進することが求められています。それだけでなく、大学における教育研究活動自体が人類の存続基盤である地球環境の上に成り立つものですから、環境の保全・改善のために実践することが必要となります。埼玉大学は、このような課題意識に立って、2006年に「環境に関する埼玉大学の方針」を決め、7つの重点実践事項を定めました。そして、毎年度、この方針に基づく年度環境目標・実施計画を決め、本学の教職員、学生、生徒・児童及び常駐する関連業者が協力して、その実現に向けて行動しています。

本報告書は、2007年度における環境活動の状況を紹介したものです。本学の環境活動は華々しくはありませんが、毎年少しずつ前進しています。本報告書には記載されていませんが、2007年度中に準備して2008年4月に具体化したものとして、工学部における環境共生学科の新設と、全学教育プログラムとしての「環境を知ろう」というテーマ教育プログラムの開設があります。

一つ一つの活動は小さなものでも、それらが集まると大きな意味を持てきます。埼玉大学は、大学及びその附属施設における環境活動を持続的に高め、地域の模範となるよう努力していく所存です。本報告書に対する忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2008年9月

国立大学法人埼玉大学長 上井 喜彦

### ～ ・ 環境に関する埼玉大学の方針 ・ ～

埼玉大学は、教育と研究を両輪とする総合大学として、社会や世界に開かれた大学を目指し、地球規模での人類的課題や地域社会が抱える現実的課題に応えるべく教育研究活動を展開しています。

我々の教育研究活動は、人類の存続基盤である地球環境の保全のうえに成り立つものであると認識し、教職員、学生・生徒・児童等及びキャンパス内に常駐する関連事業者が協力して、環境マネジメントシステムを構築するとともに、継続的な改善を図り、次の事項を重点として実践します。

- 1．環境分野の教育により、専門知識を備えた人材及び幅広い教養を備えた人材を育成するとともに、公開講座などにより地域住民をはじめとする様々な人々への環境知識の提供と啓蒙を行います。
- 2．環境保全に貢献する研究を推進し、研究成果公表などにより環境技術の発展と環境対策の推進に寄与します。
- 3．政府、地域自治体、環境NPO、市民等と協力し環境課題の解決に寄与します。
- 4．省エネルギー・省資源の取組みを推進し、温室効果ガスの排出を抑制するとともに、グリーン購入を徹底します。
- 5．使用化学物質の管理を徹底するとともに、汚染防止の取組みを推進し、各種汚染物質の排出を抑制するなど環境リスク軽減に総合的に取組みます。
- 6．教職員、学生・生徒・児童等、関連事業者とともに廃棄物の発生抑制意識を高め、分別の徹底とリサイクルを推進します。
- 7．環境にかかる法規制を組織的、自発的に遵守します。

2006年3月20日

国立大学法人 埼玉大学

# 環境に係る教育

## 環境関連授業科目

2007年度の各学部での環境関連授業科目は以下のとおりです。

2007年度環境関連授業科目一覧(1)

| 学部等     | 環境関連授業科目名        | 授業時間数  |
|---------|------------------|--------|
| 教養教育    | 環境化学基礎           | 30時間/年 |
| 教養教育    | 社会環境設計論          | 30時間/年 |
| 教養教育    | 環境政策             | 30時間/年 |
| 教養教育    | 環境科学A            | 30時間/年 |
| 教養教育    | 環境科学B            | 30時間/年 |
| 教育学部    | 社会科学概説           | 30時間/年 |
| 教育学部    | 木材加工演習           | 60時間/年 |
| 教育学部    | 森林資源の利用と教育       | 30時間/年 |
| 教育学部    | 地域社会文化開発論        | 30時間/年 |
| 教育学部    | 環境教育野外実習         | 30時間/年 |
| 教育学部    | 環境教育論A           | 30時間/年 |
| 教育学部    | 環境教育論B           | 30時間/年 |
| 教育学部    | 環境教育論課題研究        | 30時間/年 |
| 教育学部    | 総合演習(テーマ・環境)     | 30時間/年 |
| 経済学部    | 農業と環境            | 30時間/年 |
| 経済学部    | 環境政策特講           | 30時間/年 |
| 経済学部    | 環境法              | 30時間/年 |
| 理学部     | 化学基礎実験           | 60時間/年 |
| 理学部     | 化学基礎実験           | 60時間/年 |
| 理学部     | 細胞の分子生物学         | 30時間/年 |
| 理学部     | エネルギー代謝          | 30時間/年 |
| 理学部     | 細胞生理学            | 30時間/年 |
| 理学部     | 一般生化学B           | 30時間/年 |
| 理学部     | 基礎生物学            | 30時間/年 |
| 理学部     | 基礎生物学            | 30時間/年 |
| 理学部     | 生物学実験B           | 60時間/年 |
| 理学部     | 野外実習             | 30時間/年 |
| 工学部     | 環境化学             | 30時間/年 |
| 工学部     | 地球環境制御工学         | 30時間/年 |
| 工学部     | 環境分析             | 30時間/年 |
| 工学部     | 環境アセスメント         | 30時間/年 |
| 工学部     | 地圏科学             | 30時間/年 |
| 工学部     | 水環境学             | 30時間/年 |
| 工学部     | 環境保全マネジメント       | 30時間/年 |
| 工学部     | 環境化学基礎           | 30時間/年 |
| 文化科学研究科 | 文化人類学研究基礎(環境人類学) | 30時間/年 |
| 文化科学研究科 | 社会人類学(環境人類学)     | 30時間/年 |



2007 年度環境関連授業科目一覧 (2)

| 学部等     | 環境関連授業科目名  | 授業時間数     |
|---------|------------|-----------|
| 文化科学研究科 | 国際経済学      | 30 時間 / 年 |
| 経済科学研究科 | 環境政策論      | 30 時間 / 年 |
| 経済科学研究科 | 環境政策特論     | 30 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 環境動態学特論    | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 海洋環境工学     | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 河川環境工学特論   | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 環境保全特論     | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 都市交通環境システム | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 物質循環特論     | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 資源利用技術特論   | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 循環型社会形成特論  | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 自然環境評価特論   | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 環境センシング特論  | 60 時間 / 年 |
| 理工学研究科  | 環境支援制御特論   | 60 時間 / 年 |

### 環境関連図書

埼玉大学では、環境関連図書を以下のように所有しています。

(詳しくはこちらをご覧ください。 <http://www.lib.saitama-u.ac.jp/riyo/gaibu/gaibutop.html>)

#### 環境関連図書の在庫数

| 環境分野      | 図書保有数   |
|-----------|---------|
| 環境一般      | 1,445 冊 |
| 公害関係      | 1,187 冊 |
| 環境保全、自然保護 | 307 冊   |



# 環境に係る研究

## 環境関連の研究状況

2007年度の環境に係る主な研究は、下記のとおりです。

大学教員による環境関連研究はこちらをご覧ください。 → <http://souran2.saitama-u.ac.jp/>

| 環境分野         | 2007年度の主な研究テーマ  |
|--------------|---|
| 地球規模の環境      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇広域モニタリングネットワークによる黄砂の動態把握と予測・評価に関する研究</li> <li>◇枯渇性と循環性高効率利用による発展途上国向け温暖化ガス排出抑制技術の開発普及</li> <li>◇中国都市周辺地域における有機性廃棄物炭化処理による炭素資源創出と利用システム調査</li> </ul>   |
| 廃棄物<br>リサイクル | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇廃棄物処分を対象にした止水材料の透水性と膨潤性に関する研究</li> <li>◇都市固形有機性産業廃棄物の処理システムの検討</li> <li>◇都市廃棄バイオマス等からのバイオディーゼル燃料の製造・利用技術の総合化</li> <li>◇都市廃棄バイオマス等のBDF、BB利用における総合的な安全性評価</li> <li>◇都市廃棄バイオマス等の炭化処理による改質と総合利用技術の開発</li> <li>◇生ゴミの堆肥化及び製造堆肥の利用を通じての循環型思考を持つ人材の育成（生協と共同研究）</li> </ul>   |
| 自然生態<br>水圏環境 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇山地溪流河川における生態系の評価手法に関する研究</li> <li>◇海岸林の再生と利用による持続的な海岸資源管理に関する研究</li> <li>◇自然湖・人造湖における砒素集積課程の解明と探索</li> <li>◇ダム流入・放出有機物の河川生物供給動態の解明と生態系に及ぼす影響</li> <li>◇地下水水質への影響評価に関する基礎研究</li> <li>◇都市部飛散浮遊花粉への大気汚染化学物質の物理・化学的複合影響に関する研究</li> <li>◇沼地や湖沼生態系の持続的な管理と保全のための生物学的方法の利用について</li> <li>◇河川砂州の樹林化の生態学的予測モデルに構築と実河川への適用</li> </ul>  |
| 環境汚染<br>環境計測 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇沿道バックグラウンドの微小粒子生成挙動に関する研究</li> <li>◇将来再処理プロセスでの窒素酸化物クローズドシステム開発</li> <li>◇大気微小粒子中の水溶性有機粒子の動態に関する研究</li> <li>◇都市熱環境緩和に向けた水分自己調整機能材料の研究</li> <li>◇土壌改良材の土壌微生物への影響および水質浄化機構の研究</li> <li>◇汚染物質のコロイド形態による土壌内移動と運命予測の解明</li> <li>◇改良型インパクターフィルターによる大気中超微小粒子の分級濃縮捕集と成分組成の評価</li> <li>◇岩石土壌材料における塩害に関する研究</li> <li>◇実環境条件に基づいたコンクリート構造物の劣化予測モデルの開発</li> <li>◇土壌ガス挙動のモデル化と環境リスク評価への適用</li> </ul> |
| 社会的環境        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇乳児と養育者（親）の音声コミュニケーション行動と家庭内の音環境に関する研究</li> <li>◇教育関係者は水俣病問題とどう向きあったか？；環境教育史研究のための基礎的資料収集</li> </ul>   |

## 環境に係る講演等の実施

環境関連の講演等の主な実施状況は次のとおりです。

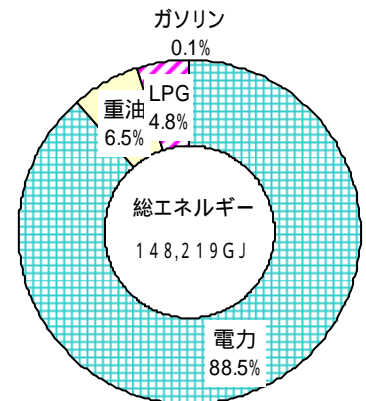
|    |  |           |
|----|--|-----------|
| 講演 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇持続可能な水資源としての排水再利用</li> </ul> <p style="text-align: center;">浅野 孝 カリフォルニア大学名誉教授</p> | 2008・1・21 |
|----|--|-----------|

# 省エネルギーへの取組み

## エネルギー消費量

埼玉大学の2007年度の総エネルギー消費量は148,219GJ（ギガジュール=1ジュールの10億倍）で、2006年度と比較すると7%の増加となりました。（※電力の換算係数を昨年度と同数値にすると、1%の増加）

このうち電力がもっとも多く88.5%を占め、次いで重油が6.5%、LPGが4.8%、自動車ガソリン消費量は0.1%でした。



2007年度エネルギー総消費量

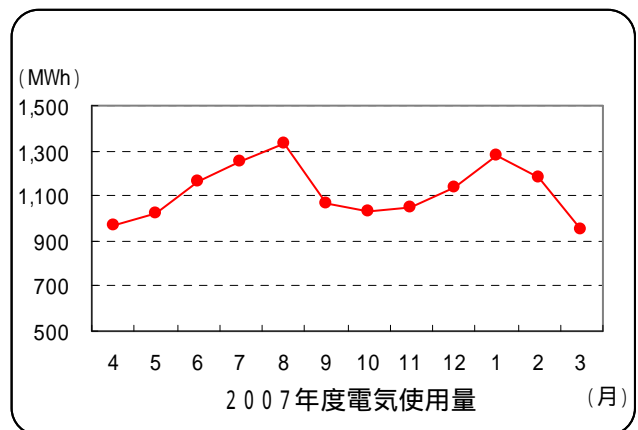
参考：エネルギー量への換算係数  
 電力(昼間)：9.97MJ/kWh 電力(夜間)：9.28 MJ/kWh A 重油：39.1MJ/L LPG：50.2MJ/kg  
 ガソリン：34.6MJ/L  
 なお、エネルギー消費量への換算は一次エネルギー（電力を得るために投入した化石燃料の量）  
 ＊出典 電気：関東経済産業局定期報告書作成用データ（平成19年年度版）  
 電気以外：「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」（平成15年 環境省）

エネルギー消費のうち、もっとも多くを占める電力は、2007年度は13,433MWh（メガワット=kWhの1,000倍）を消費しました。なお、これは一般家庭の使用量（4人家族）で換算すると、3,730世帯が一年で使う量に相当します。

右図は電気の月別の使用量です。年間を通してみると、7～8月の夏期及び1～2月の冬期の使用量が多く、冷暖房の使用が多いことがわかります。

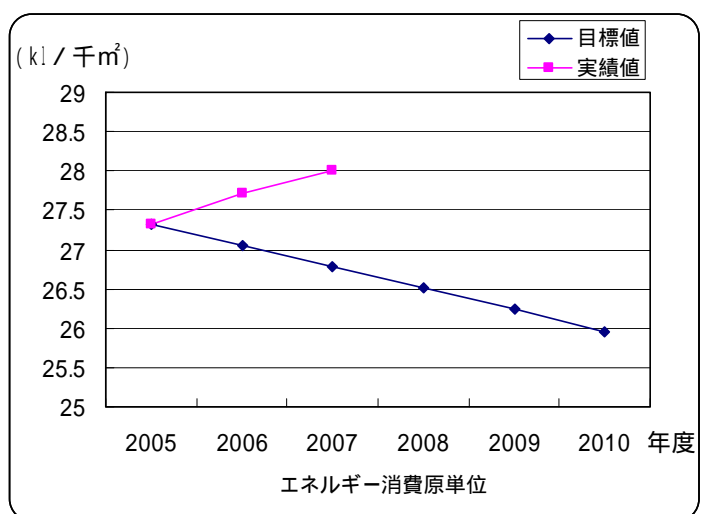
東京電力と結ぶ契約電力が一番ピーク時の30分当たりの電気使用量をもとに契約する事になっており、基本料金はこの契約電力で通年支払うこととなります。

夏場の電気使用量が増えると、契約電力を変更しなければならず、電気料金に跳ね返ります。ですから、電気料金を抑えるには、夏のピークの電気使用量を抑えることがポイントになります。



## エネルギー使用原単位

埼玉大学のエネルギー管理標準では、エネルギーの使用に係わる原単位について、2005年度を基準として毎年度1%削減を年度目標、5か年で5%削減を中期目標として設定しています。2007年度のエネルギー使用原単位は2006年度と比較して1%増加となり目標は達成できませんでした。原因は、夏季の記録的な猛暑による冷房のための電気使用量増加と思われるが、目標を達成するためには更なる省エネ意識の徹底が必要と思われます。



エネルギーに係わる原単位とは

電力、重油、ガス、ガソリン等の総エネルギー使用量を原油量（k l）に換算し、建物の延べ面積（千㎡）で除した数値（k l / 千㎡）で、毎年1%の削減が義務づけられています。（この数値は毎年、経済産業省及び文部科学省に「定期報告書」にて報告しています）



## 温室効果ガス排出状況

2007年度の温室効果ガス排出量は、5,665トンでした。これは、電力、重油、LPG、ガソリン消費量から、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量を換算したものです。なお、埼玉大学では過去5年間で建物の増改築等を行っています。全ての年度を同じ条件で比較するため、建物の面積当たりの使用量を同時に示しました。

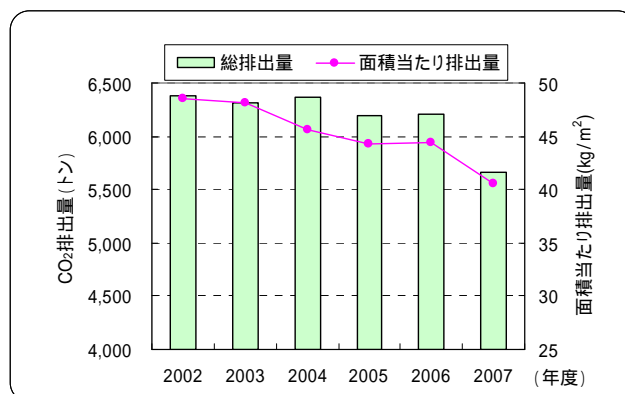
2007年度の排出量は、2006年度と比較すると、年間CO<sub>2</sub>排出量は543トン、建物床面積当たりの排出量は3.9kg/m<sup>2</sup>減少したので、温室効果ガス排出量の削減目標1%は達成しました。（下表）

※エネルギー使用量が増えたのに温室効果ガス排出量が減少した理由は、東京電力より発表された電力の温室効果ガス排出係数が0.381kg-CO<sub>2</sub>/kWhから0.339kg-CO<sub>2</sub>/kWhに下がったためです。

### CO<sub>2</sub>排出量の比較

|        | 年間<br>CO <sub>2</sub> 排出量 | 建物延床面積<br>当りのCO <sub>2</sub> 排出量 |
|--------|---------------------------|----------------------------------|
| 2002年度 | 6,378 t                   | 48.6 kg/m <sup>2</sup>           |
| 2003年度 | 6,319 t                   | 48.2 kg/m <sup>2</sup>           |
| 2004年度 | 6,369 t                   | 45.6 kg/m <sup>2</sup>           |
| 2005年度 | 6,195 t                   | 44.3 kg/m <sup>2</sup>           |
| 2006年度 | 6,205 t                   | 44.4 kg/m <sup>2</sup>           |
| 2007年度 | 5,662 t                   | 40.5 kg/m <sup>2</sup>           |
| 前年度比   | 91%                       | 91%                              |

### 2002～2007年度 CO<sub>2</sub>排出量



参考：温室効果ガス排出量（CO<sub>2</sub>排出量への換算）

【温室効果ガス排出係数】電力：0.339kg-CO<sub>2</sub>/kWh, A重油：2.71kg-CO<sub>2</sub>/L, LPG：3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg, ガソリン：2.32kg-CO<sub>2</sub>/L

\*電力は「東京電力の平成20年度報告用CO<sub>2</sub>排出係数使用。

\*廃プラは内容不明、廃油は処分方法不明（リサイクルか燃焼処分か）のためCO<sub>2</sub>排出量には含めていない。

\*CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）以外の温室効果ガスのHFC（代替フロン）、SF<sub>6</sub>、CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>Oは、排出があっても無視できるほど小さいと考え、算出対象とはしていない。

## 省エネルギーへの取組み

埼玉大学では、全学を挙げて省エネルギーに取り組んでおり、教職員・学生等に省エネルギー行動を呼びかけているほか、施設面でも以下のような様々な設備を導入しています。しかしながらエネルギーの消費量では目標を達成することができませんでした。2008年度以降も毎年1%ずつエネルギー量を削減するように、目標及び達成のための行動計画を設定し、各部局の環境推進委員会を中心に全教職員・学生が省エネに取り組んでまいります。

### 【空調デマンド管理システム】

2005年10月1日から効率よく空調機をコントロールすることにより、電気使用量と電気料金を削減できる空調デマンド管理システムを導入しました。

コントロール対象は表のとおりです。キャンパス内の合計103台、圧縮機出力738.7kWの空調機をコントロールし、更なる省エネとCO<sub>2</sub>削減を目指します。2007年度は4tのCO<sub>2</sub>を削減しました。

（2008年1月～3月の削減量）

今後、更に対象機器の拡大を検討中です。

### コントロール対象

| 建物名       | 台数   | 圧縮機出力   |
|-----------|------|---------|
| 本部管理棟     | 14台  | 78.9kw  |
| 理学部3号館    | 18台  | 171.2kw |
| 総合研究棟     | 56台  | 343.1kw |
| 教育学部コモ1号館 | 15台  | 145.5kw |
| 合計        | 103台 | 738.7kw |

## 【太陽光発電システム】

大学内には、太陽光発電設備を設置しています。設置状況は右表のとおりです。モニターパネルにより、現在の発電状況がわかるようになっています。

また、附属幼稚園と附属小学校、附属中学校、附属養護学校にも 10kW の太陽光発電が設置されています。

太陽光発電の設置状況

| 建物名        | 発電力    | 設置年度      |
|------------|--------|-----------|
| 講義管理棟(工学部) | 10.0kw | 2001 年度設置 |
| 駐輪場        | 1.2kw  | 2003 年度設置 |
| 総合研究棟      | 40.0kw | 2003 年度設置 |
| 合計         | 51.2kw |           |



駐輪場屋根のソーラーパネル



総合研究棟 1 階のモニターパネル

## 【電気・空調設備】

施設面では教育学部 A・B 棟改修工事において、照明設備のインバーター化、トイレ等の共用部への人感センサー及び高効率空調機を採用し、省エネルギー化しました。

## 【省エネルギー対策の行動】

埼玉大学では、節電対策を徹底し、以下のような対策を講じています。また、室内のスイッチのそばにステッカーを貼るなどして、節電を呼びかけています。

- ・ 昼休み、講義、会議などで部屋を空ける場合は、照明を消し、エアコン、パソコンの電源を切る。
- ・ エレベーターの利用は、荷物の運搬及び階段の使用に支障がある人を除き 5F 以上の昇降に限る。
- ・ 廊下、ラウンジなどの電灯の間引きを行う。
- ・ エレベーターは、土日祝日及び平日 20 時～8 時の間、休止する。
- ・ 冷房温度は 28℃、暖房温度は 20℃ に設定する。
- ・ 服装については、夏季は薄着、冬期は厚着を心掛ける。 等々

## 埼玉大学室温設定

夏期冷房期間



私たちは省エネを  
実行します。



# コピー - 紙使用量と廃棄物排出量削減への取組み

## コピー紙使用状況

2007年度のコピー紙使用量は65,023kgで、2006年度と比較して約562kg削減しました。

一方、古紙リサイクル量は110,760kgでコピー紙使用量の1.7倍の量をリサイクルしています。

### コピー用紙と古紙リサイクル量比較

|        | コピー紙使用量  | 古紙リサイクル量  |
|--------|----------|-----------|
| 2004年度 | 60,468kg | 112,770kg |
| 2005年度 | 63,388kg | 99,910kg  |
| 2006年度 | 65,585kg | 94,160kg  |
| 2007年度 | 65,023kg | 110,760kg |
| 前年度比   | 99%      | 118%      |



コピー用紙のリサイクルボックス

## 廃棄物排出量削減への取組み



改修工事廃材の分別収集再資源化

2004年度～2007年度の廃棄物排出状況は下記の表のようになっています。

産業廃棄物は、建物増改築や研究室の引越などにより一時的に排出される量の変動が大きくなるため、削減目標は可燃ごみと不燃ごみを合わせた一般廃棄物を対象にしています。

2006年度と比較すると一般廃棄物量は9%減少し、資源ごみは18%増加しました。

- ※ 実験系廃棄物の種類  
 廃油、塩素系溶媒、重金属廃液  
 廃酸廃アルカリ、廃固形類

### 廃棄物量比較

|        | 一般廃棄物量 | 産業廃棄物量   | 実験系廃棄物量 | 資源ごみ量  | 廃棄物総排出量  | 最終処分量  |
|--------|--------|----------|---------|--------|----------|--------|
| 2004年度 | 231.1t | 690.8t   | 24.3t   | 112.8t | 1,059.0t | 118.9t |
| 2005年度 | 244.8t | 584.3t   | 24.5t   | 99.9t  | 953.5t   | 110.0t |
| 2006年度 | 264.1t | 1,092.6t | 26.7t   | 94.2t  | 1,477.6t | 165.2t |
| 2007年度 | 241.6t | 825.0t   | 27.2t   | 110.8t | 1,204.6t | 136.5t |
| 前年度比   | 91%    | 76%      | 102%    | 118%   | 82%      | 83%    |



## 埼玉大学構内廃棄物集積場所

本学では廃棄物の分別回収の徹底を図っています

- 一般廃棄物集積所**（古紙類・燃えないゴミ・燃えるゴミ・リサイクル紙ゴミ）  
 一般廃棄物：本学の委託回収業者が燃えるゴミは平日毎日、その他のゴミも週2回収を行う。
- 産業廃棄物等集積所**（産業廃棄物・家電リサイクル法指定品目・コンピューター機器等）  
 産業廃棄物等：本学の依頼に基づき、回収業者が回収する。
- 自動販売機（回収ボックス）設置場所**  
 飲料缶・ペットボトル：生協、ローソン、自動販売機業者4者の責任において回収する。

飲料缶等改修ボックス



一般廃棄物集積所



産業廃棄物集積所



一般廃棄物集積所



一般廃棄物集積所



埼玉大学大久保団地配置図 S=1/5000

# 水使用とその他の環境配慮への取組み

## 水使用の削減取組み状況

2007 度の上水使用量は、下記の表のように水道水と地下水の使用比率が 1 : 1.3 程度でした。2007 度の上水使用量は 2006 年度の 113%で、大きく増加しました。(目標は前年度比 1 %削減)

上水使用量と総排水量一覧表

|         | 水道水使用量                | 地下水使用量                | 上水使用量合計                | 総排水量                   |
|---------|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 2004 年度 | 75,051 m <sup>3</sup> | 68,852 m <sup>3</sup> | 143,903 m <sup>3</sup> | 120,865 m <sup>3</sup> |
| 2005 年度 | 55,970 m <sup>3</sup> | 65,590 m <sup>3</sup> | 121,560 m <sup>3</sup> | 100,867 m <sup>3</sup> |
| 2006 年度 | 54,397 m <sup>3</sup> | 54,142 m <sup>3</sup> | 108,539 m <sup>3</sup> | 98,466 m <sup>3</sup>  |
| 2007 年度 | 53,448 m <sup>3</sup> | 69,100 m <sup>3</sup> | 122,548 m <sup>3</sup> | 97,688 m <sup>3</sup>  |
| 前年度比    | 98%                   | 128%                  | 113%                   | 99%                    |

※上水は植樹への散水や路面洗浄などにも使用しており、地下に浸透や蒸発するため、総排水量は上水道使用量より少ない数値となっています。



受水槽(手前:市水、向:地下水)

## 廃液処理の取組み状況

### 廃液処理施設



処理後残渣

埼玉大学では、教育・研究活動において種々の材料や試薬類を使用するため、有害物質を含む廃液や廃油、廃溶媒類など多種多様な有害廃棄物が発生します。そこで学内にある廃液処理施設では、有害廃棄物によって大学周辺の環境及び住民の健康を損なうことのないよう、無害化処理を行っています。

また、廃液処理施設から出る排水の検査を月 2 回実施し、適切に処理が行われているかチェックしています。

この他、講義や実験で薬品を使用する学生には、事前に実験廃液処理の教育及び安全指導を行っています。

※廃液処理施設に係る規則は <http://www.saitama-u.ac.jp/houki/houki-n/mokuji-n/index-5.html> に掲載しています。

## 化学物質の削減

### 【P R T R : 環境汚染物質排出・移動登録 (Pollutant Release and Transfer Register )】

埼玉大学は理学部・工学部を有するため、P R T R 法 (化学物質排出管理促進法※) の適用を受けています。2007 年度の主な指定化学物質の外部への排出は、クロロホルムが 2,881.7kg、ジクロロメタン (別名、塩化メチレン) が 2,028.1kg、トルエンが 1,082.9kg でした。

なお、全ての化学物質についても取扱研究者や学生は無駄な使用を控え、分別回収を徹底して排出量を削減するように努めています。

※PRTR 法とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握、集計し、公表することを定めた法律です。

## アスベスト対策

構内の吹き付けアスベストについては、2006 年度に 13 棟 2,133 m<sup>2</sup>の撤去工事を終了していましたが、平成 20 年 2 月 15 日付け「学校施設等における石綿障害予防規則第 3 条第 2 項の規定による石綿等の使用の有無の分析調査の徹底等について (通知)」により、再度分析調査を実施したところ、秩父山寮の和室及び自動車車庫 1 にアスベストの含有が確認されました。秩父山寮については 2008 年 7 月撤去完了、自動車車庫 1 については 2008 年度中に撤去する予定です。



# 環境法令遵守

埼玉大学では下記のような環境法規制が適用され、遵守評価対象としています。今後、法規制の見落としなどの防止を図るため、担当管理部署を明示し法規制遵守体制を強化してまいります。

主要な適用法規制等と管理部署

| 法規制等（略称）        | 規制内容  | 担当管理部署     |
|-----------------|---|------------|
| 省エネ法            | 第一種エネルギー管理指定工場（熱と電気を合算して3000k1以上）に係わるエネルギー管理士の選任や定期報告 | 施設管理課      |
| 埼玉県生活環境保全条例     | 環境負荷低減計画書の届出  | 施設管理課      |
|                 | 廃棄物処理計画の届出  | 施設管理課      |
|                 | 有害大気汚染物質の測定   | 施設管理課      |
| 廃棄物処理法          | 適正な収集処理業者への委託   | 経理課        |
|                 | 産業廃棄物のマニフェスト管理  | 経理課・施設管理課  |
|                 | 特管産業廃棄物のマニフェスト管理                                      | 施設管理課等     |
| 市廃棄物処理・再生条例     | 廃棄物減量計画書の提出   | 財務課・経理課    |
|                 | 事業系一般廃棄物の処理   | 経理課        |
| 市下水道条例          | 排水水質基準順守  | 廃棄物処理施設長   |
| 県条例             | 地下水のくみ上げ使用  | 経理課・施設管理課  |
| 遺伝子組換え生物使用規制法   | 実験計画書の提出と規程の遵守評価                                      | 研究協力課      |
| 放射線障害防止法        | 放射線管理状況の国への報告と規程遵守                                    | 研究協力課      |
| さいたま市自転車駐車場附置条例 | 自転車駐車場の設置と放置自転車の管理                                    | 施設管理課      |
| 環境情報提供促進法       | 環境報告書の公表  | 環境委員会・専門部会 |
| グリーン調達法         | グリーン購入調達方針と実績の報告公表*)                                  | 経理課・施設管理課  |
| 消防法             | 一定規模以上の危険物使用保管の届出                                     | 人事課・施設管理課  |
| 高圧ガス保安法         | 高圧ガスの貯留（液化窒素）   | 研究協力課      |
| 大気汚染防止法         | ボイラー（重油・ガス式）／焼却炉／ディーゼル機関                              | 施設管理課      |
| 騒音規制法           | 空調用の空気圧縮機や送風機   | 施設管理課      |
| P R T R 法       | 第1種指定化学物質の使用・排出状況の報告                                  | 研究協力課      |
| P C B 処理法       | PCB含有の高圧コンデンサ、高圧変圧器、照明用安定器の届出・保管                      | 施設管理課      |
| フロン回収破壊法        | フロン使用製品の許可業者への引渡し                                     | 経理課・施設管理課  |
| 建設リサイクル法        | 一定規模以上の工事の施主の計画書の提出                                   | 施設管理課      |
| 自動車リサイクル法       | 自動車車検時の廃棄料支払い   | 経理課        |
| 家電リサイクル法        | 指定家電の廃棄処分時の廃棄料支払い                                     | 経理課        |

\*)埼玉大学のグリーン調達の方針と実績はこちらをご覧ください。

→<http://www.saitama-u.ac.jp/zaimu/choutatu/>

## 構内での取組み

### 構内での取組み

ポイ捨て防止や教職員・学生有志による構内一斉美化活動、構内外での放置自転車禁止に係る対策及び禁煙対策を推進しています。

#### 【構内美化活動】

構内美化を推進し、ポイ捨て防止はもちろんのこと、年 1 回教職員や学生の有志による構内清掃活動を実施しています。



#### 【駐輪対策】



以前は学生が大学周辺に自転車・バイクを違法駐輪し、近隣住人から苦情が寄せられることが多かったため、駐輪場を整備しました。また、定められた場所以外での駐輪禁止の広報と警備員による巡視を行い、学内駐輪場に駐輪するように徹底しています。

#### 【分煙対策】

埼玉大学では「大学構内、原則禁煙」の看板を出し、指定の喫煙場所以外をすべて禁煙区域にしています。主な喫煙場所には「喫煙所」の看板を出しています。



構内喫煙所



歩行喫煙禁止看板

#### 【緑地の保存】

埼玉大学では、大学建設前からあった自然林の一部を、下草刈り等による保全をしています。



保存されている自然林



学生たちによるシュロ、青木、木ツタの伐採



### 【工学部 花\*バイオプロジェクト】

工学部では、理科に対して高等学校の生徒の方々に興味を持っていただく、地域の方々との交流を図る、さらに地域環境を美しく保つなどを目的とし、「工学部 花\*バイオプロジェクト」を立ち上げました。

工学部の敷地内に花壇を整備して、その維持・管理に本学学生、高校生や地域住民に参加してもらい、工学部の研究内容を理解してもらおうとともに、環境問題への関心を高める一方、埼玉大学工学部および大学キャンパス全体の美化整備を行った。

なお、このプロジェクトは、「高校生むけサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（科学技術振興機構 SPP）」に対応しています。



整備された花壇



向日葵（上）と紅花（下）

### 【建物改修にあたっての配慮】

埼玉大学では、建物改修にあたって、明るく使い勝手の良い建物をキーワードとして、片側に共同スペース等を集約し、その廊下側の壁をガラススクリーンとすることにより廊下への採光を取入れ、明るく広がりのある視野を確保し、圧迫感のない空間構成とした。





## 【打ち水大作戦】

財務部施設管理課では中央広場の池を定期的に清掃・管理していますが、池の水を入れ替える際に、仮設ポンプにて付近の通路に散水し、「打ち水効果」を利用して歩道の温度を下げる試みをしました。

(打ち水効果：水1gの蒸発で約0.6kcalの気化熱を奪う効果がある)





散水風景（ 消防訓練ではありません）



学生・教職員や近所の住民の憩いの水場

## 生ゴミ等リサイクルに関する環境への取組み

埼玉大学では、生ゴミのリサイクル等、様々な廃棄物削減に関して下記のような積極的な環境活動を実施しています。

| 項目         | 廃棄物削減に係る取組み事項  |
|------------|--|
| 食堂の廃食用油    | 中間処理業者を通して、工業用油脂（石けん用、塩ビ安定剤）、飼料用油脂（配合飼料減量）に <b>100%</b> リサイクルしています。（年間排出量は <b>3.4</b> トン）  |
| 生ゴミのリサイクル  | <p>教育学部の石田研究室では、生協との共同研究として第一食堂から出る生ゴミの約7割を堆肥化し、農場肥料としてリサイクルしています。</p> <p>2006年度から埼玉大学における技術科の教員免許取得に関わる栽培関係の講義、実習、卒業研究、並びに全学学生対象の講義等で、生ゴミリサイクルに関する内容を上げています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><b>堆肥化実証試験施設</b></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><b>堆肥化実証試験施設内部の様子</b></p> </div> </div> |
| 売店の包装等の廃棄物 | 弁当容器のリサイクル回収率は <b>3</b> 割弱。今後、回収箱の増設などにより回収率向上を図ります。また、食堂から出る割り箸は回収してほぼ全量リサイクルしています。   |
| グリーン販売     | グリーンマークのついた製品を積極的に仕入れています。   |

## 「埼玉大学グリーンキャンパスプロジェクト」(GCP)の活動

「GCP」の前身は、「埼玉大学グリーン活動ボランティア」と言えます。「埼玉大学クリーン活動ボランティア」は、学生指導教員が「環境改善ボランティア」を提唱したところ、賛同した教育学部学生2名の呼びかけに、学部生12名、修士生1名が集まり、平成17年10月28日に教育学部A・B・C棟周辺やケヤキ並木側道の下草の除草、枯れ葉の清掃、小枝の刈り込みのボランティア活動を行ったのが始まりです。

その後、他学部の学生も加わり、平成18年度には2か月に1回程度のボランティア活動が行われ、多いときには30名を超える参加者がありました。



平成19年度からは活動範囲を拡大し、地域住民との対話、ふれあいを視野に入れた「絆」(きずな)という学生ボランティア団体が組織され活動を開始しました。「絆」のメンバーは、組織の中の「学内環境部門」



を「クリーン活動ボランティア」と呼んで趣旨を継承しました。「生活の場である大学の環境を、自分たちで守り育てる姿勢を！」という基本コンセプトを引き継ぎ、構内の清掃活動及び花植え活動を月に1回程度実施することを予定して、いつでも・どなたでも・できるものからの参加を呼びかけて活動してきました。

4月：教養教育1号館付近、教養学部前庭、教育機構棟付近の清掃

5月：大学会館前及びデッキ、バス停付近の清掃

6月：教養教育1号館付近、教養学部前庭、教育機構棟付近の清掃

7月：大学会館前及びデッキ、バス停付近の清掃

8月：埼玉大学北側（埼大通り）「植え込み缶拾い」

そして、平成19年10月からは、平成18年度当初から刈り込み等のクリーン活動に加わってきたメンバーを中心に、「GCP」（埼玉大学グリーンキャンパスプロジェクト…学生が選定した名称）が組織されました。上記「絆」のメンバーも全員これに加わったため、活動は、「絆」の活動をも吸収したような形になりました。

GCPのねらいは、埼玉大学の恵まれた緑の環境（樹木等）に親しみ、構内環境への関心を高めつつ、学生自身が自分たちのアイデアと奉仕で、一層潤いのある、また、愛着と誇りの持てる大学環境を築いていこうとしたものです。具体的な活動としては、これまでの清掃活動の他に、構内に四つの散策コースを設定することがメインの活動として計画されました。



- ① 万葉植物散策コース
- ② グリーンアドベンチャーコース
- ③ 花園・公園コース
- ④ 通りすがり観賞コース の四つです。

特に、①②については、樹木案内板の設置、コースマップ・解説パンフの作成、コースの保全と清掃、散策者の案内などを活動内容の中心に据えました。なお、これらの活動は、以前から構内環境に関心を持ち、樹木プレートを設置を企図していた埼玉大学同窓会連合会から積極的な支持受け、同会との連携のもとに活動が行われました。

GCP結成後の主な活動は以下の通りです。

10月：教養教育1号館付近、教養学部前庭、教育機構棟付近の清掃

11月：教育学部C棟前花壇の除草と清掃

12月：教育機構棟北側への「フクジュソウ」「水仙」の植え付け

1月：教養教育1号館付近、教養学部前庭、教育機構棟付近の清掃

2月：樹木案内プレート（万葉散策コース、グリーンアドベンチャーコース等）の取り付け

3月：教育機構棟前への「かたくり」の植え付け

## 生協学生委員会の取組み

生協学生委員会は、組合員のうち埼玉大学に在籍している約 50 名の学生が中心となり、組合員に充実した大学生活を送ってもらうため、学生の視点からの活動を行っている団体です。

以下に数多くの活動の中から、環境への主な取組みを紹介しますが、組合員のみなさんのアクションに結びつくようなキッカケ作りやステップアップのサポートになればと参加を呼びかけています。

各活動に関する問い合わせ先：生協学生委員会 HP <http://saitama-u.coop-bf.or.jp/~gi/index.htm>

### 【リ・リパックの回収活動】

埼玉大学生協では、環境に優しいお弁当箱「リ・リパック」を 2005 年 4 月から使用しています。なぜ環境に優しいかと申しますと、工場でもリ・リパック容器の再生原料に利用する際に簡単な洗浄で済むので節水になるということです。

また、燃やさないでリサイクルすることを考えれば、環境に対する効果は予想以上のものです。

現在、第 1 食堂、第 2 食堂（2ヶ所）、教育学部 A 棟 3 階、総合研究棟 2 階の 5ヶ所に回収 BOX を設置し、毎週末に回収 BOX からリ・リパックを集め工場に発送しています。

気になる回収率ですが、現在は 30% 程度に留まっており組合員の皆さんにもっと「リ・リパック」のことを知っていただき、可燃ゴミとの分別回収の協力と興味のある方の参加を求めています。



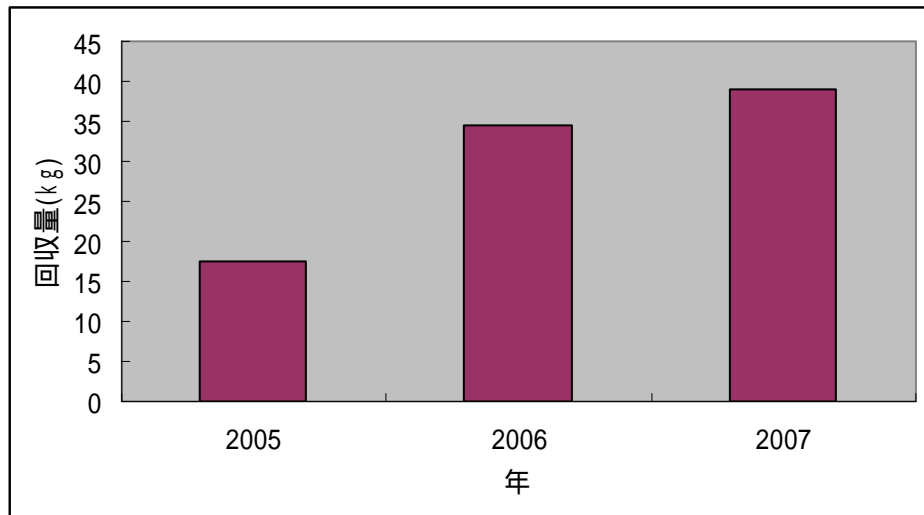
### 【むつめ祭環境活動】

平成 19 年 11 月 2~4 日の 3 日間、むつめ祭を環境に配慮した学園祭にするため、「割り箸回収」を行いました。

割り箸 3 膳の回収で A4 用紙 1 枚分の資源を確保することができます。そのため、来場者への「割り箸 3 膳で A4 用紙 1 枚」というキャンペーンで協力を呼びかけました。3 年前から始めたこの活動での割り箸の回収量は着実に増加し、3 日間で回収した割り箸の量は 3.9 kg (昨年比 10% 増)、A4 用紙 1700 枚分の材料としてリサイクルできたこととなります。

むつめ祭関係者との協力が必要な活動なので、これからも協力を呼びかけていきます。

むつめ祭における割り箸回収量（2005年～2007年）



生協学生委員会は、組合員のうち埼玉大学に在籍している約 50 名の学生が中心となり、組合員に充実した大学生活を送ってもらうため、学生の視点からの活動を行っている団体です。

以下に数多くの活動の中から、環境への主な取組みを紹介しますが、組合員のみなさんのアクションに結びつくようなキッカケ作りやステップアップのサポートになればと参加を呼びかけています。





# 2008 年度環境目標と行動計画

環境に関する埼玉大学の方針に基づく、2008 年度環境目標・実施計画は以下のとおりです。本学の教職員、学生・生徒・児童及び常駐する関連事業者は協力して積極的にその実現に向けて行動いたします。

## 1. 環境教育・研究の推進

|      |   |
|------|---|
| 目標   | 環境教育の充実及び環境保全に関する研究を推進する。   |
| 実施計画 | ①環境関連の授業を通して環境に関する教養を備えた多くの人材を育成する。<br>②専門教育を通して、環境に関する高度な専門知識を備えた人材を育成する。<br>③環境保全に関する研究を積極的に展開し、環境対策の推進に寄与する。 |

## 2. 温暖化対策

|      |  |
|------|--|
| 目標   | 延べ床面積当りの CO <sub>2</sub> 排出量を 2007 年比で 1 % 以上削減する。   |
| 実施計画 | <p>&lt;活動取組み&gt;</p> <p>①使用していない部屋の照明や冷暖房はその都度切る。</p> <p>②当面使用しない電気機器は、コンセントを抜く。</p> <p>③パソコン等の OA 機器は会議出席、昼休み等長時間不使用時には電源オフとし、短時間不使用時にはモニターオフとする。</p> <p>④電気ポットなどの電熱機器の使用を控える。</p> <p>⑤暖房便座の電源を夏季（6 月～9 月）は切り、節電モードがあるタイプは ON に設定する。また、使用後は便座のふたを閉める。</p> <p>⑥冷暖房は業務、講義等における必要最小限の場所とし、冷房は室温が 28℃ を下回らないように、暖房は 20℃ を上回らないようにし、教職員の服装は夏期（6 月～9 月）は軽装、冬期（12～3 月）は厚着を心掛ける。</p> <p>⑦原則として、冷暖房運転はウィークデイの午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分までとする。事務室、研究室の冷房運転は、午前 9 時 30 分からとする。</p> <p>⑧荷物運搬や階段を使用するのに支障がある人を除き、エレベーター利用は 5F 以上の昇降に限定する。</p> <p>⑨エアコンのフィルター清掃を、1 回/月程度行う。</p> <p>⑩廊下、居室などで安全上支障とならない範囲で消灯、間引き点灯を行う。<br/>なお、昼休み時間は必要箇所を除き、一斉消灯する。</p> <p>⑪天候に合わせて自動ドアの電源を切る。</p> <p>⑫冷蔵庫は、弱設定とする。また、買い換え時には容量が過大にならないように配慮する。</p> |

## 3. エネルギー使用原単位の削減

|      |  |
|------|--|
| 目標   | エネルギー使用に係わる原単位を 2005 年比で 3 % 削減する。   |
| 実施計画 | <p>&lt;活動取組み&gt;は 2. 温暖化対策と同様</p> <p>&lt;工事計画&gt;</p> <p>① 照明器具、空調機、給湯器等について、高効率機器を採用する。</p> <p>② トイレの器具について自動水栓及び節水器具を採用する。</p> <p>③ 廊下・トイレの照明について人感センサーを採用する。</p> <p>④ 建物の断熱施工やペアガラス等の採用を検討する。</p> |

#### 4. コピー紙使用量削減

|      |  |
|------|--|
| 目標   | 教職員・学生数当りのコピー紙使用量を 2007 年比で 5%削減する。  |
| 実施計画 | ①会議資料や事務手続き資料の簡素化をする。<br>②守秘を要する資料以外は、裏紙を利用する。<br>③両面印刷、両面コピーを徹底する。<br>④可能な限り、電子媒体の画面で読むようにし印刷をしないように努める。<br>⑤ミスコピーや誤記載資料の再コピーのないように複写機の設定確認・使用後の設定クリア及び資料作成段階でのチェックを徹底する。 |

#### 5. 節水

|      |   |
|------|---|
| 目標   | 教職員・学生 1 人当りの水使用量原単位を 2006 年比で 1%以上削減する。  |
| 実施計画 | ①こまめに蛇口をとめて節水に努める。<br>②トイレ洗水は 2 度流しを行わないように努める。<br>③蛇口の自動水栓化を推進する。<br>④体を石鹸洗淨している間はシャワー水を止めるなど、節水に努める。<br>⑤構内散水は、ほこり、美観、植栽に必要最低限の量に抑えるよう留意する。 |

#### 6. 排水水質管理

|      |   |
|------|---|
| 目標   | 実験廃液の完全回収を徹底し、排水基準の遵守を図る。                                     |
| 実施計画 | 学生・教職員に対する環境汚染防止教育を行う。<br>(排水水質管理の方法を理工系以外のより多くの学生などに理解してもらう) |

#### 7. 廃棄物削減とリサイクル

|      |   |
|------|---|
| 目標   | 可燃ごみ・不燃ごみを 2007 年比で 1%以上削減する。   |
| 実施計画 | ① 混ぜれば廃棄物、別ければ資源という意識をもって分別を徹底する。<br>② 買い物バッグを携帯するように努めるなど、廃棄物の抑制に努める。<br>③ 飲料ボトルや缶は、教室などに放置せず、自販機に脇に設置してある回収ボックスに入れる。<br>④ 弁当ガラなどの廃プラスチックの回収箱を増設する。<br>⑤ 使用済み封筒の再利用に努める。<br>⑥ 古紙は可燃ゴミとしないでリサイクルにまわす。 |

#### 8. 化学物質管理と法規制遵守

|      |                        |
|------|------------------------|
| 目標   | 法規制遵守の体制を整える。          |
| 実施計画 | 法規制遵守の責任役割及び報告体制を整備する。 |

#### 9. グリーン購入

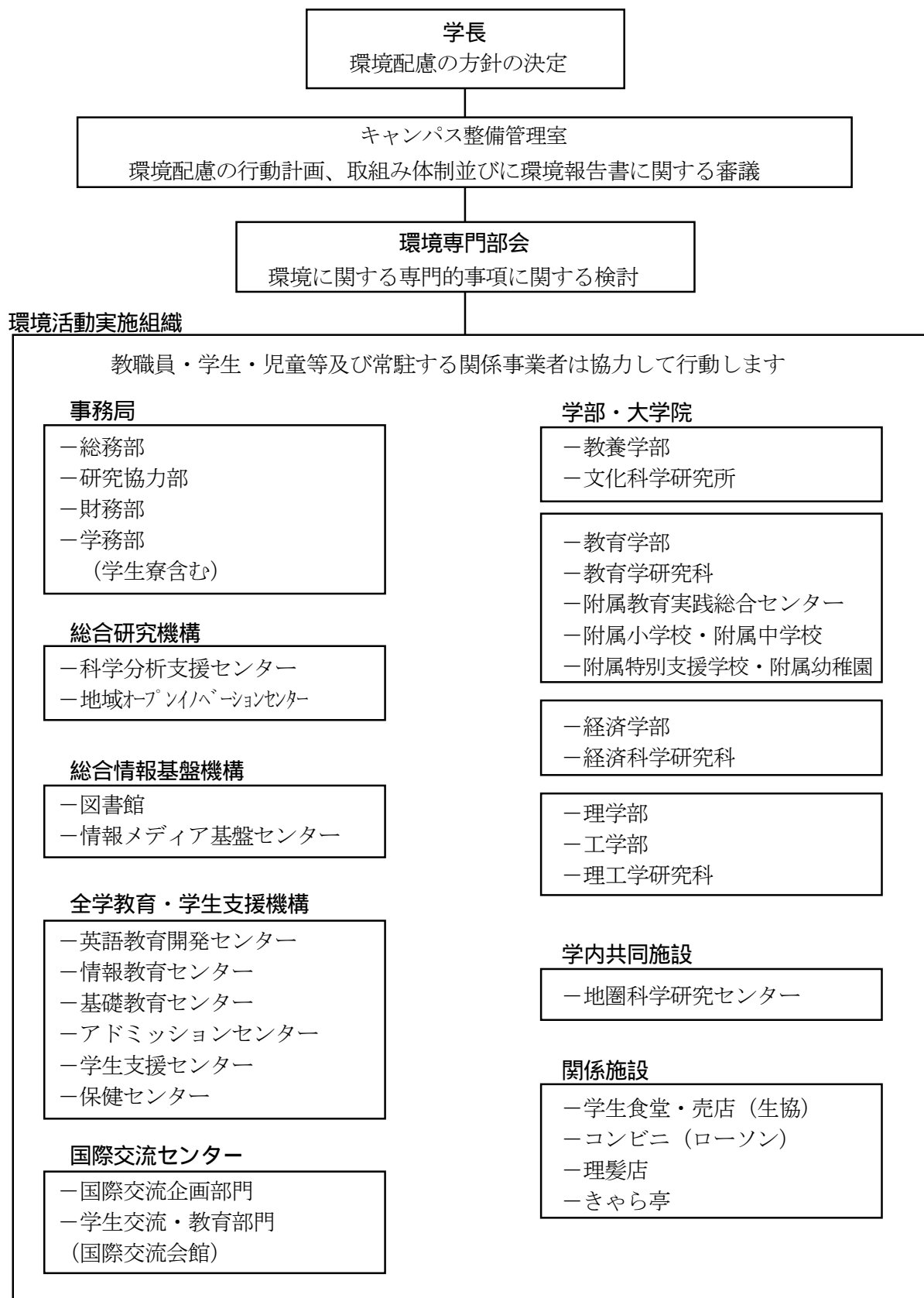
|      |  |
|------|--|
| 目標   | グリーン調達品目 100%目標を徹底する。  |
| 実施計画 | グリーン調達品目の注文時や納品検査時に、担当職員は「埼玉大学 環境物品等の調達の推進を図るための方針」に適合しているかどうかを確認する。 |

#### 10. その他環境保全活動

|      |   |
|------|---|
| 目標   | 学内の美化・緑化など教育研究の場に相応しい環境作りを推進する。   |
| 実施計画 | ①全学一斉清掃等をキャンパス内の教職員、学生及び常駐する関連業者が協力し実施する。<br>②学内における教育・研究に相応しい環境及び地域住民の良好な生活環境の保持に努める。<br>③各部局にて、環境推進委員を選任し、部局のリーダーとして環境保全に務める。 |



# 環境管理体制



各課・室及び関係施設において、環境推進委員を定め、環境負荷削減取組みチェックリストに基づく監視を行い四半期毎にキャンパス整備管理室専門部会（財務部）に提出する。

環境委員会の規程は <http://www.saitama-u.ac.jp/houki/houki-n/mokuji-n/index-8.html> に掲載しています。

## 環境活動実施体制

2008年度の環境目標と行動計画の確実な実現に向けて、各部局から「環境推進委員」を選出し、推進委員を中心とした環境活動実施体制を採ることとしました。

環境推進委員は、「環境負荷削減取組みチェックリスト」を利用しながら部局毎に環境目標の実現を目指すこととなりますが、各部局構成員の積極的な協力体制が求められます。

2008年度の環境推進委員は、以下の皆さんです。

### 事務局

|       |   |
|-------|---|
| 総務部   | 本村俊孝、大瀬勝寿、森藤美沙子、土田元栄、高橋是美、星 操、今井均   |
| 研究協力部 | 塩原耕次、大澤宏平   |
| 財務部   | 八木修一、小山登、荻原稔、芝崎政子、添田勉、新井和宏、守屋正紀、山中淳   |
| 学務部   | 竹中準、今井雅幸、菊地良昌、岡田健二、三浦厚、藤田明、林智朗、富田浩昭、福島謙吉、小西朋、新保孝之、倉林久、小林美保子、望月幸子、浅香隆二、飛田緑、岸隆一、佐藤泰弘、渡辺秋雄、須永博夫、小林秀夫 |

### 総合研究機構

|                   |  |
|-------------------|--|
| 科学分析支援センター        | 徳永誠、安武幹雄、中村市郎、畠山晋、新見智久、是枝晋                                   |
| 地域オープンイノベーションセンター | 木下裕美、マジャロヴァ、古館宏之、山田興治、池野順一、若狭雅信、小林禧夫、藤野毅、鎌田憲彦、平塚信之、広瀬卓司、石井昭彦 |

### 総合情報基盤機構

|              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| 図書館          | 岡崎勝世、大場秀穂、関博之、大内聡子、柴原秀美、小野寺伸、早川雅代 |
| 情報メディア基盤センター | 村松美由起                             |

### 全学教育・学生支援機構

|            |       |
|------------|-------|
| 英語教育開発センター | 武笠行祐、 |
| 保健センター     | 伊藤恵里子 |

### 国際交流センター

|          |           |
|----------|-----------|
| 国際交流センター | 井上金一、海上哲明 |
| 国際交流会館   | 篠原幸雄      |

### 学部・大学院・附属学校園

|          |  |
|----------|--|
| 教養学部     | 山中信彦、井口壽乃、永田雅啓、星野徹、大久保讓、小谷一郎、内田秋男  |
| 教育学部     | 山口和孝、長滝繁、尾澤隆幸  |
| 附属小学校    | 岡野雅一、清水誠、高橋常一、二宮嘉延   |
| 附属中学校    | 石川泰成、大簿記輝雄、松本憲治、内山誠司   |
| 附属特別支援学校 | 細渕富夫、永妻恒男、西岡弥生、河野武志、内河水穂子、神田佳明、武藤義包  |
| 附属幼稚園    | 山本三環、野田寿美子、松延愛美、榎本平四郎  |
| 経済学部     | 伊藤修、渡辺志津子、横田芳夫、門平健、佐藤時夫、鹿子木範昭、渋谷百代、カンバルテル、松本正生、芝園子、李 潔、宇佐美洋一、後藤和子、田中恭子、沼尻晃伸、岩見良太郎、遠藤環、高松亮、鈴木邦夫、山内まなみ、伊藤修、柳沢哲哉、相澤幸悦、金房広幸、新井光吉、金子修、薄井和夫、大石直樹、水村典弘、長島正治、間野肇、近田典行、菰田文男、井原基、末松栄一郎、三宅雄彦、山下勇一、並河永、藤田総平、川又伸彦、土川信夫、 |

|        |  |
|--------|--|
| 経済学部   | 本城昇、山下正明、齋藤友之、高橋純一、中垣陽子、伊藤孝、兎宗柁、<br>外岡豊、箕輪徳二、円谷昭一、尾西正美、安藤陽、江口幸治、秋月信二、<br>岡部恒治、鈴木規康、藤林泰 |
| 理工学研究科 | 西田生郎、弥益恭、飛田和男、若狭雅信、三浦弘、照沼太陽、阪本邦夫、<br>阿部茂、重原孝臣、堀尾健一郎、水野毅、窪田陽一、久保田尚、横山輝男                 |

### 学内共同施設

|            |                          |
|------------|--------------------------|
| 地圏科学研究センター | 桑野二郎、小口千明、渡辺邦夫、橘伸也、長田昌彦、 |
|------------|--------------------------|

### 学生

|         |  |
|---------|--|
| 課外活動施設等 | 牛島俊、宮本学、上迫正樹、名和川裕規、大野修平、国定択央、江間洋平、<br>牧野夏美、飯塚遼、紙谷裕紀、新保暁子、久保田恵、長谷川裕司、宮野裕樹、<br>松崎慎平、安齊卓弥、小林和輝、中島祐樹、廣戸理伸、宇治克将、桐原昌秀、<br>小笠原光二、白石麻里子、手塚佳宏 |
|---------|--|

### 常駐事業者

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 生協第1・第2食堂 | 居藤治（食堂部店長）、大塚照彦（総務課長） |
| ローソン埼玉大学店 | 渡邊恭介（店長）              |
| 理髪店       | 吉田和洋（店長）              |
| きやら亭      | 関根 靖（料理長）             |
| 守衛室       | 柴野清隆（隊長）              |
| 作業員室      | 高野照雄（業務リーダー）          |



【南側陸上競技場よりキャンパスを望む】

埼玉大学の教育研究事業を説明するホームページ案内

- 埼玉大学概要 <http://www.saitama-u.ac.jp/koho/intro/gaiyou/2008gaiyo.pdf>
- 学部・大学院案内 <http://www.saitama-u.ac.jp/dept/index.html>
- 国際交流 <http://www.saitama-u.ac.jp/international/index.html>
- 高校生向け大学案内デジタルパンフレット  
<http://www4.d-pam.com/fileRoot/fp/4/0/400170/DigitalAlbumRoot/070731152218/default1.html>
- 構内案内図 <http://www.saitama-u.ac.jp/access/campus.html>
- 研究者の研究情報 <http://souran2.saitama-u.ac.jp/>

お問合せ先

埼玉大学財務部施設管理課

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255

TEL : 048-858-3020

FAX : 048-858-3681

E-mail : [sisetu1@mail.saitama-u.ac.jp](mailto:sisetu1@mail.saitama-u.ac.jp)